

授業科目名		生活支援技術 I		担当者		橋本 彩子	
配当学科・研究科		社会福祉		NO.		HS-SW-2-505	
必修・選択	選択	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
年次	2			履修期	2017年度 秋学期		
テーマと到達目標		テーマ:介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の人を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。また、介護サービス提供の基礎を理解し、事例を通して、生活支援技術を提供する過程を作成する。 到達目標: ①認知症の中核症状・周辺症状について理解し、認知症の利用者の心理を理解する。 ②介護する家族の心情を察し、具体的な支援技術を習得する。 ③いくつかの事例を通して、利用者・家族のおかれている状況をアセスメントし、社会資源等を活用し、利用者の望んでいる生活を継続できるような支援技術を習得する。					
概要		①認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、実感できるように工夫し、介護において認知症を理解することの必要性に気づく。複数の具体的なケースを視聴覚等を利用しながら示し、認知症の利用者の介護について原則を理解する。同様に介護する家族への支援の在り方も考察する。 ②介護過程の目的・意識・展開・介護過程とチームアプローチを理解する。 ③総合生活支援技術演習(事例の展開)で、生活の各場面での利用者・家族の状況をアセスメントし、利用者の望んでいる社会資源と結びつけ、支援過程を作成していく技術を習得する。					
評価方法		この科目では、様々なかたちの認知症の高齢者の理解をおこなうことを目的の1つとしている。視聴覚教材を用いて理解を深め、参加型学習への積極的参加態度(10%)、知識や習得程度を確認するための試験(80%)、また、事例を通して、自らアセスメントし、支援過程を作成していく演習(10%)で評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の演習への参加態度を重視していく。 なお随時、視聴覚教材の感想、演習プロセスを提出し、全員で共有し、フィードバックしていく。その内容を、試験までに見直しておく。					
履修条件・注意事項		①介護従事者としての資格取得に意欲的であること。 ②随時、資料を配布するのでファイリングしていくこと。授業では、資料にポイントを書き込み、自分なりにまとめていく参加型とするため、それに基づき復習、次回の予習(情報収集)をおこなっていく。					
自己学修		随時、講義の疑問点・感想をリフレクションシートにまとめ、全員で共有する。また、指示された次回の範囲を、テキストに目を通し、問題意識を持ち(予習)臨む。予習・復習にはそれぞれ2時間程度を要する。					
オフィスアワー		授業終了後、教室にて					
春学期授業計画		授業方法	担当者	秋学期授業計画		授業方法	担当者
				1.認知症を取り巻く状況	講義		橋本
				2.医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	講義		橋本
				3.認知症に「伴うところからだの変化と日常生活	講義		橋本
				4.認知症の人を介護する家族への支援	講義		橋本
				5.専門性を生かした介護過程の展開	講義		橋本
				6.7.総合生活支援技術演習「ところとからだ」の力が発揮できない要因を分析し、支援技術の分析・演習を行う。事例1)Yさん・80歳・女性・要介護4(老健入所中、在宅を可能にする援助)	演習		橋本
				8.9.事例2)Oさん・88歳・女性・要介護2(グループホーム入所中、「共に行う」視点)	演習		橋本
				10.11.事例3)Aさん・81歳・女性・要介護1(独居、軽度認知症、施設サービス利用法)	演習		橋本
				12.13.事例4)Kさん・88歳・女性・要介護5(特別養護老人ホーム入居中、寝たきり)	演習		橋本
				14.事例1・2・3・4の支援の全体像を話し合う	演習		橋本
				15.振り返り・今後の課題	講義		橋本
				16.試験	筆記試験		橋本
教科書							
教・書籍名1	介護職員初任者研修課程テキスト(第2・3巻)				教・出版社名1	日本医療企画	
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		

教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	